

「いのち」の教育実践事例

生命の継承の大切さ
に関する教育

☆庄内町立余目第一小学校の実践

—小さないのちも大切にする自然との共生を目指して—

余目第一小学校では、体験活動を大切にしながら感性豊かな児童の育成を通して「いのち」の教育を進めています。特にメダカの保護活動は、家根合生態系保全活動センターと保護者や地域の方の協力を得ながら20年以上継続している活動になります。

○メダカの保護活動の実践

1 メダカっこクリーン隊活動

(1) 4年生の親子、地域の方によるメダカ池の清掃活動をします。成長しすぎた水草を取ったり、周りの雑草を刈ったり、メダカが住みやすい環境を整えます。(年2回)

2 メダカの里米の田植え、稲刈り体験

(1) 5月下旬、4年生が田植え体験をします。
(2) 6月上旬、メダカを放流します。(家根合の児童)
(3) 7月下旬、中干しのためにメダカを捕獲し保護します。メダカが繁殖するほど安心安全な水で稲が生長しているのが分かります。(家根合の児童)
(4) 9月中旬、4年生が稲刈り体験をします。

3 魚の学習会

(1) 10月、水田に流れていく家根合揚水機場ファームpondには、どんな魚が住んでいるか観察。メダカを含めて、多くの淡水魚を捕獲し見ることができました。また、外来種も生息していることに気づきました。

* 多くの生物が住めるこの環境と、そこに生きる生き物について考えることができました。



学区内に2か所のメダカ池があります。(クリーン隊活動)



メダカが住める安全な水田での田植えと稲刈り。

たくさんの種類の魚がすんでいることが分かった。また、外来種もいることが分かった。(魚の学習会)



☆酒田市立東部中学校の実践

—「地域を創る」学びを栄養にして次の学びへ、最後は地域に誇れる実(未来)を—

東部中学校には、たくさんの「地域の宝(ヒト・モノ・コト)」があり、子ども達の育ちを支えてくれています。そんな地域に対しての感謝の思いを、自分達なりの貢献活動で伝えたいと考えた昨年度の生徒会執行部が「熱盛隊(東部を熱く盛り上げ隊)」を結成し、地域のためになる活動や地域の方と一緒に活動を始めました。活動は多岐にわたるので、その時々で参加できる生徒を募集し、集まった生徒同士で主体的に活動しています。

人口減少や高齢化が進み、元気が失われつつあるふるさとの町づくりに関わることで、自分達の町のいのち(生命)を自らの手で次世代に繋ごうとする心を育てたいと思っています。

○地域の宝さがしワークショップ

酒田 DMO と連携し、東部学区の魅力(宝)を発信する活動をしています。

○落ち葉集め

ひらた里山の会と協働で、学校周辺の落ち葉を集めます。集めた落ち葉は腐葉土になり、作物栽培に使われます。

○ひらた産業まつり

そばの出店では売り子をしました。映画上映の受付を担当した生徒もいました。

○ビッグハートプロジェクト

夏には竹灯籠を飾って夏祭りを盛り上げ、冬にはイルミネーションを飾って、地域に笑顔を運びました。



地域の方と一緒に地域の宝さがし



地域イベントでは出店のお手伝い



落ち葉を集めて、腐葉土を作ります



イルミネーションで、地域を明るく照らします